

# 林原美術館 NEWS

HAYASHIBARA MUSEUM OF ART NEWS

vol.23

平成24年 春号

## 文化とは何か

財団法人 林原美術館 前館長 熊倉 功夫

近代の教育者の一人に高橋箒庵という人物がいます。本名は義雄とって、旧水戸藩の出身ですが、慶応義塾で福沢諭吉に学び、のち若くして三井銀行の大阪支社長となりました。彼はその頃から茶の湯に親しみ、『大正名器鑑』など、膨大な著作を残しました。

箒庵が趣味ということについてこんな風に述べています。「人間にとつて趣味は大切なものである。犬に趣味があるか。趣味とはあつてもなくてもよいものではなくて、人間が人間らしくあるために必須のものである。」この趣味という言葉を文化とおきかえてみたらいかがでしょう。人間だけが文化を持つている動物です。もし文化を否定してしまつたら、人間と動物一般の差はありません。

ここでいう文化は、国家、社会の仕組みから・人間の経済・政治活動すべてを包含する概念ですが、中でも知的な情報にかかわる人間の創造活動を、狭い意味での文化と呼んでいます。さきの箒庵のいう趣味もその一つです。こうした文化を、われわれは日々糧にして生きていくのです。

林原美術館は、こうした文化の宝庫です。

この宝庫を、岡山のために、否、日本のためにいかに守り、日本人としての誇りをもった生き方を貫くための糧としてゆくか。ここに美術館の使命があります。

さきにお願ひした林原美術館を守る会の署名は一人に達しました。そのほとんどは、岡山県ならびに

近県の方々です。林原美術館がいかにこの地に密着した存在であるか、認識を新たにしました。八年間にわたつて館長をつとめてまいりましたが、この度辞任することとなりました。この間のご力添えに厚く感謝申し上げます。

今後ともご支援を、切にお願い申し上げます。



# 館長就任挨拶

長瀬 玲二

熊倉先生の後任として林原美術館長に就任いたしました、長瀬玲二（ながせ りょうじ）です。

熊倉先生は昨年2月の株式会社林原ほかの会社更生申し立て以来、前面に立って美術館の存続と収蔵品の散逸防止に努めてこられました。先生を支える多くの方々のご支援もあって長瀬産業グループ入りした林原と共に、美術館は存続し、重要な収蔵品の散逸も避けることができました。この間の熊倉先生のご尽力に深く敬意を表したいと思います。

もとより日本文化の様々な側面に造詣が深く、また茶の湯の研究では第一人者でいらつしゃいます熊倉先生には比べるべくもない浅学非才の私ですが、林原美術館のこれからの安定と発展のために取り組んでまいる考えです。

様々な場面で累次申し上げていきますとおり、林原美術館の運営は歴史的・文化的に重要な事業ですが、林原一社の力で支えていけるものではありません。今後、地元の方々、公の方々、経済界の方々とご相談しながらしっかりとした経営体制を作る道筋を模索してまいります。

今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 特別展

### 「洛中洛外図屏風に描かれた世界」

開催中〜4月15日(日)

桃山時代から江戸時代の京都の景観を描いた洛中洛外図屏風は、当時の京都の建物や風俗を今に伝えてくれています。国宝の上杉本(米沢市上杉博物館、原本展示は4月1日まで)、重要文化財の舟木本(東京国立博物館)、池田家伝来の林原本など、日本を代表する洛中洛外図を一堂に集めて展示します。



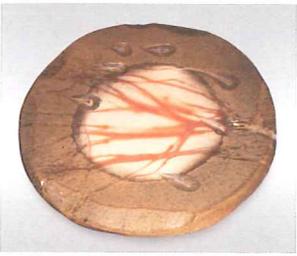
重要文化財 洛中洛外図屏風 (林原美術館)

## 企画展

### 「びぜんの華 — 備前焼と備前刀 —」

平成24年4月27日(金)〜6月3日(日)

岡山を代表する工芸品の備前焼と備前刀。その技術と情熱はいにしえより現在まで引き継がれてきました。本展では館蔵の桃山時代の備前焼・国宝の備前刀をはじめとした各時代の名品と、重要無形文化財保持者(人間国宝)の備前焼や備前刀を併せてご覧いただけます。



備前穴くり大皿 伊勢崎淳作

## 企画展

### 「染付と赤絵の美」

平成24年6月17日(日)〜7月22日(日)

当館所蔵の陶磁器の中から染付と赤絵を展示します。染付は中国では青花とも呼ばれ、白磁に青で絵付けしたものです。赤絵は明代に花開き、日本では柿右衛門様式やいわゆる古伊万里などとして愛好されました。本展ではこれら青と赤の世界をご鑑賞頂きます。

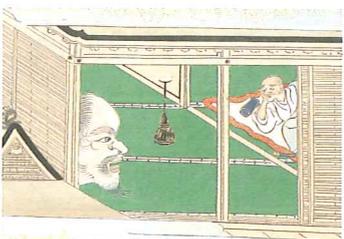


染付雲鶴波清図八角大壺

### 「平清盛 — 平家物語絵巻の世界 —」

平成24年8月3日(金)〜9月30日(日)

武家として初めて太政大臣にのぼった平清盛と、その一族の栄枯盛衰を描いた『平家物語』は、日本で最も親しまれている物語の一つです。そのすべてを絵画化した当館所蔵の『平家物語絵巻』(全36巻)を中心に、平家物語の織り成す激動の時代を振り返ります。



平家物語絵巻 巻5上 物怪の事

特別企画展

「能のいでたち  
備前池田家伝来能装束の世界」

平成24年10月12日(金)〜平成24年11月25日(日)

室町時代に能を大成した世阿弥が記した世界最古の芸能論である『風姿花伝』。その中の「物学条々」の条に「いづれのものまねなりとも、(中略)したてをもて本とす。」とあります。世阿弥は能の中で、したて(＝出で立ち)の重要性を説いています。面とともに、まさに出で立ちの重要な部分を占めるものが能装束です。その能装束は、他の芸能衣装のように能衣装と呼ばれることはなく、文字通り「装束」という特別な意味を持ちました。残念ながら世阿弥の生きた時代の能装束は伝世しておらず、我々が見ることのできる最も古い能装束は桃山時代のもとなります。江戸時代には能は武家の式楽となり、特に備前岡山藩主の池田家歴代は大変な能の愛好者として知られます。膨大な数の能装束の中には古く桃山時代のものも含まれ、大切に伝えられてきました。伝来の能装束を見ると、能装束は時代と共に姿を変えることがうかがえます。本展覧会では池田家伝来の能装束を展覧し、あらためて能装束の魅力を探ります。



能装束 繡箔霞水禽文

企画展

「池田家の明治維新」

平成24年12月9日(日)〜平成25年1月27日(日)

幕末期に岡山藩主をつとめた第8代藩主池田慶政、9代茂政、10代章政の業績を振り返るとともに、近代になり華族となった池田家が、自家の文化財をどのように維持・管理していたのかを明らかにし、文化財を守り伝えることの意義を考えます。



錦御旗

「姫ごみたちのひな道具」

平成25年2月8日(金)〜平成25年3月21日(木)

備前池田家に伝わった姫君たちの雛道具をご紹介します。雛の祭りは、古来女子の健やかな成長を祈る祭りとして行われてきました。本展では豪華な蒔絵の雛道具から、実際に遊んだままのご道具まで展示します。



梅若松蒔絵雛道具ノ内 厨子棚

イベント

お花見

お花見の会

林原美術館では、できるだけ多くの方々に「日本の伝統美術」に親しんでいただきたいという思いで、毎年さまざまなイベントを企画いたしております。今年もご好評いただいているものから新たなワークショップまで、さらに充実した内容となっております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。なお、受付日等につきましては、当館までお問い合わせください。

「お花見野点と前館長熊倉功夫を囲む会」

林原美術館お花見の会も春の恒例行事となりました。桜の花を愛でながら、熊倉前館長の講話、そして裏千家の数田宗枝先生ご社中の方々による野点のお茶席をお楽しみいただきます。

日時 平成24年4月2日(月)

定員 60名(要予約)

参加費 友の会員4,700円

一般5,200円(弁当代含む)

文化ゾーンを巡る旅

美術館巡り

今回は、武將茶人上田宗箇を流祖とする上田流和風堂を特別見学し、その後、世界遺産の島・安芸の宮島を一望できる海のみえる杜美術館を展覧いたします。一日たっぷり広島を満喫していただきたいと思っております。

日時 平成24年10月6日(土)

定員 25名(要予約)

参加費 友の会員13,000円

一般14,000円



## ワークショップ

### 〈絞り染め教室「染を楽しむ」〉

女性に人気の絞り染め体験を開催いたします。今回は関西を中心に活躍されている若き染色作家である益田治子先生をお招きし、染色についてご教授いただきます。繊細でありながら、大胆かつ独創的な作品を多く手がけている益田先生と絞り染めを楽しんでみませんか？

日時 平成24年7月1日(日)  
 講師 益田治子氏  
 場所 林原美術館ロビー  
 定員 20人(要予約)  
 参加費 4,200円

### 〈貝合わせ「貝合わせ体験」〉

雛道具の展覧会に合わせて、大名婚礼調度のひとつである貝合わせを使った日本古来の遊びに触れていただきます。当館所蔵品の貝や貝桶などを間近で御覧いただきながら、貝合わせについての解説を聞いた後、ロビーにて実際に貝合わせを体験していただきます。

日時 平成25年2月17日(日)  
 講師 後楽園で貝合わせを楽しむ会の方々  
 場所 林原美術館ロビー  
 定員 24名(要予約)  
 参加費 友の会会員500円 一般1,000円

## 美術館講座

### 〈学芸員による美術講座〉

日時 平成24年11月25日(日)13時30分〜15時  
 演題 岡山芸術回廊協賛  
 「林原美術館の精華」  
 講師 当館学芸員  
 会場 林原美術館ロビー  
 参加費 500円  
 定員 50名(要予約)

ただ今検討中の林原美術館講座等各種イベントは別途詳細決定次第ご案内申し上げます。



## 「友の会」募集のご案内

- 会員の種類・年会費
 

個人会員	1年	3,000円(新規)
	3年	2,700円(入会継続)
法人会員	1年	7,000円
	3年	30,000円(新規)
	3年	27,000円(入会継続)
	3年	70,000円
  - 有効期限
    - 1年会員 平成24年4月1日〜平成25年3月31日
    - 3年会員 平成24年4月1日〜平成27年3月31日
  - 会員の特典
    - ① 入館料無料または割引料金
    - 【企画展】ご本人と同伴者1名様 無料
    - 【特別展】ご本人と同伴者1名様 割引料金
    - ② 展覧会・イベント情報の送付  
展覧会ごとに案内状の送付
    - ③ イベントへのご参加は、会員割引料金でのご案内他あり
- 「林原美術館NEWS」(年2回発行)の送付  
 その他イベントのお知らせの送付
- ご入会の申し込みおよび詳細は、美術館スタッフまでお尋ねください。

## 編集後記

今年度は、平家物語絵巻の展覧会や、定番化の人気企画も用意しております。皆様楽しんでいただけるよう、スタッフも頑張っておりますので是非おかけください！皆様のご来館をお待ちしております。

（杉村・新井）



〒700-0823 岡山市北区丸の内二一七一一五  
 財団法人 林原美術館  
 TEL 〇八六一二二三一七三三三  
 FAX 〇八六一二二六三〇八九  
<http://www.hayashibara-museumofart.jp>

